

平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年3月14日

上場会社名 株式会社 ソフトフロントホールディングス
 コード番号 2321 URL <http://www.softfront.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阪口 克彦
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務担当 (氏名) 五十嵐 達哉

TEL 03-3568-7007

四半期報告書提出予定日 平成29年3月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	1,084	284.2	△242	—	△237	—	△275	—
28年3月期第3四半期	282	29.9	△344	—	△345	—	△355	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 △274百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 △358百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△13.07	—
28年3月期第3四半期	△24.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	4,462	1,694	37.5	75.01
28年3月期	1,358	1,294	94.8	66.65

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 1,671百万円 28年3月期 1,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年 3月期の連結業績予想(平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	2,500 ～3,700	621.9 ～968.4	30 ～200	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

株式会社筆まめ、株式会社ソフトフ
 新規 3 社 (社名) ロントジャパン、株式会社ソフトフ
 ントR&D、除外 1 社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P3「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再開示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	22,284,520 株	28年3月期	19,331,727 株
29年3月期3Q	97 株	28年3月期	97 株
29年3月期3Q	21,054,396 株	28年3月期3Q	14,586,600 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関わる記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、本資料に全面的に依存した投資等の判断は差し控えます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	P. 3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	P. 3
4. 四半期連結財務諸表	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 5
四半期連結損益計算書	P. 5
第3四半期連結累計期間	P. 5
四半期連結包括利益計算書	P. 6
第3四半期連結累計期間	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 7
(継続企業の前提に関する注記)	P. 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 7
(セグメント情報等)	P. 8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）の当社グループ事業に係るICT関連分野を取りまく環境につきましては、前期に引き続き、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた堅調な市場の推移が見受けられました。

このような環境の下、当社グループは平成28年5月16日に発表した中期経営計画に従い、M&A等を活用した事業展開を積極的に推進しており、当第3四半期連結累計期間においては、次のとおり成果が得られ、今後の事業基盤拡大の端緒をつかむことができいております。

- ①平成28年4月：「株式会社筆まめ」（以下、「筆まめ社」という。）の株式を取得し、完全子会社化。クラウド・サービス展開や法人向け市場への展開の加速などのシナジー効果による事業拡大を図る。
- ②平成28年6月：「デジタルポスト株式会社」（以下、「デジタルポスト社」という。）への追加出資を実施し、連結子会社化。郵便のデジタル化を加速させ、コミュニケーションプラットフォーム提供の強化とネットとリアルとの融合による事業展開の加速に資する。
- ③平成28年8月：持株会社に移行し、「株式会社ソフトフロント」から「株式会社ソフトフロントホールディングス」に商号変更。また、新設分割により「株式会社ソフトフロントジャパン」（以下、「ソフトフロントジャパン社」という。）及び「株式会社ソフトフロントR&D」（以下、「ソフトフロントR&D社」という。）を設立し、事業を両社に承継。ポートフォリオ型の事業経営により環境適応力を強化し、経営の効率化を図る。
- ④平成28年9～12月：「株式会社AWESOME JAPAN」（以下、「AWESOME JAPAN社」という。）の株式取得、簡易株式交換を実施し、完全子会社化。日本企業の海外進出支援事業の推進に加えて、当社グループのグローバル展開の加速に資する。
- ⑤平成28年11月：「株式会社グッドスタイルカンパニー（前有限会社グッドスタイルカンパニー）」（以下、「グッドスタイルカンパニー社」という。）の株式を取得し、連結子会社化。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,084,432千円（前年同四半期比284.1%増）、営業損失△242,506千円（前年同四半期は営業損失344,517千円）、経常損失△237,484千円（前年同四半期は経常損失345,469千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失△275,271千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失355,976千円）となりました。これらの業績は前年同四半期連結累計期間を大幅に上回っている状況であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、営業外収益として、主にベトナム現地法人における為替相場の変動による為替差益4,023千円（第2四半期連結累計期間では営業外費用として1,680千円の為替差損を計上）、当社の子会社である株式会社コロコニが東京都中小企業団体中央会から交付を受けた「次世代保育付ワークスペースサービス」の構築事業に係る平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金（平成27年11月25日付『「次世代保育付ワークスペースサービス」プロジェクト発足』にて公表）の補助金収入5,246千円を計上しております。また、営業外費用として支払利息2,906千円を、特別損失としてデジタルポスト社ののれんの減損損失55,295千円、今後の本社及び子会社のオフィス移転に備えた引当金として移転損失引当金繰入額2,922千円をそれぞれ計上しております。これらにより、平成28年5月16日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

①コミュニケーションソフトウェア関連事業

売上高は245,664千円（前年同四半期比12.9%減）、セグメント損失375,210千円（前年同四半期はセグメント損失344,517千円）となりました。これは主にBYODの製品である「Livy Talk Smart Office」の提供が増加したものの、製品・サービスの開発が一部進行中であったことなどから、損失を計上しております。

②筆まめ関連事業

売上高は893,769千円、セグメント利益は148,492千円となりました。これは主に、第2四半期連結会計期間において、筆まめ社主力製品『筆まめ』バージョンアップ版の販売により売上計上が開始されたことによります。

③その他

売上高は2,315千円、セグメント損失は11,176千円となりました。これは主に、当第3四半期連結会計期間において、AWESOME JAPAN社において翻訳関連業務等の販売による売上計上があったものの、一部の翻訳関連業務の売上計上が第4四半期連結会計期間以降にずれ込んだことなどから、損失を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,904,497千円となり、前連結会計年度末に比べ728,188千円増加いたしました。これは主に、売掛金が705,653千円増加したことによるものであります。固定資産は2,558,218千円となり、前連結会計年度末に比べ2,376,115千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が310,776千円、無

形固定資産ののれんが1,515,869千円、投資その他の資産のその他が388,433千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,471,193千円となり、前連結会計年度末に比べ1,419,411千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が238,167千円、1年内返済予定の長期借入金が325,942千円、前受金が530,183千円増加したことによるものであります。固定負債は1,296,825千円となり、前連結会計年度末に比べ1,284,825千円増加いたしました。これは主に、長期借入金が742,242千円増加、その他が408,558千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,694,697千円となり、前連結会計年度末に比べ400,066千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失275,271千円を計上したものの、資本金が288,442千円、資本剰余金が366,261千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は37.5%（前連結会計年度末は94.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では、平成28年5月16日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間において、株式会社コロコニは重要性が高まったため、連結の範囲に含めております。

第1四半期連結会計期間において、デジタルポスト社及び筆まめ社を新たに子会社化し、連結の範囲に含めております。なお、第2四半期連結会計期間より筆まめ社は特定子会社に該当しております。

第2四半期連結会計期間において、ソフトフロントジャパン社及びソフトフロントR&D社を新たに設立したため、また、AWESOME JAPAN社を新たに子会社化したため、連結の範囲に含めております。なお、ソフトフロントジャパン社は第2四半期連結会計期間より、ソフトフロントR&D社は当第3四半期連結会計期間より当社の特定子会社に該当しておりますが、AWESOME JAPAN社は特定子会社に該当しておりません。

第3四半期連結会計期間において、グッドスタイルカンパニー社を新たに子会社化し、連結の範囲に含めております。なお、グッドスタイルカンパニー社は特定子会社に該当しておりません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失452,869千円、経常損失468,101千円、親会社株主に帰属する当期純損失491,675千円を計上し、5期連続の営業損失の計上、また、3期連続の営業キャッシュ・フローのマイナスを計上いたしました。当第3四半期連結累計期間においても、営業損失242,506千円、経常損失237,484千円、親会社株主に帰属する四半期純損失275,271千円を計上しており、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消し、早期黒字化を図ることが優先課題であると認識しております。そのための施策として①新たな市場への挑戦、②スピーディなニーズ対応、③環境適応力の強化を積極的に推進し、当社グループにおける業績回復を進めて参ります。

なお、当社グループの施策の詳細は、「4. 四半期連結財務諸表（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）」に記載しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,079,778	1,011,910
売掛金	74,633	780,286
その他	21,897	164,355
貸倒引当金	-	△52,054
流動資産合計	1,176,309	1,904,497
固定資産		
有形固定資産	-	310,776
無形固定資産		
ソフトウェア	136,509	380,614
のれん	-	1,515,869
その他	-	42
無形固定資産合計	136,509	1,896,526
投資その他の資産		
その他	134,394	522,827
貸倒引当金	△88,800	△161,792
投資損失引当金	-	△10,120
投資その他の資産合計	45,594	350,915
固定資産合計	182,103	2,558,218
資産合計	1,358,413	4,462,716
負債の部		
流動負債		
営業未払金	1,006	60,782
短期借入金	-	238,167
1年内償還予定の社債	-	20,000
1年内返済予定の長期借入金	6,000	331,942
未払法人税等	13,350	26,765
前受金	6,436	536,619
移転損失引当金	-	2,922
その他の引当金	257	23,926
その他	24,731	230,067
流動負債合計	51,782	1,471,193
固定負債		
社債	-	60,000
長期借入金	12,000	754,242
資産除去債務	-	74,024
その他	-	408,558
固定負債合計	12,000	1,296,825
負債合計	63,782	2,768,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,700,923	3,989,366
資本剰余金	3,483,083	3,849,344
利益剰余金	△5,895,630	△6,171,486
自己株式	△64	△64
株主資本合計	1,288,312	1,667,160
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	1,504
為替換算調整勘定	78	2,993
その他の包括利益累計額合計	78	4,498
新株予約権	6,240	0
非支配株主持分	-	23,038
純資産合計	1,294,631	1,694,697
負債純資産合計	1,358,413	4,462,716

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	282,273	1,084,432
売上原価	219,760	467,737
売上総利益	62,513	616,695
販売費及び一般管理費	407,031	859,202
営業損失(△)	△344,517	△242,506
営業外収益		
受取利息	125	136
受取配当金	-	61
為替差益	-	4,023
補助金収入	-	5,246
その他	54	1,062
営業外収益合計	180	10,530
営業外費用		
支払利息	356	2,906
為替差損	775	-
株式交付費	-	2,068
その他	-	532
営業外費用合計	1,132	5,507
経常損失(△)	△345,469	△237,484
特別利益		
段階取得に係る差益	-	35,000
特別利益合計	-	35,000
特別損失		
投資有価証券評価損	9,600	-
減損損失	-	55,295
移転損失引当金繰入額	-	2,922
特別損失合計	9,600	58,218
税金等調整前四半期純損失(△)	△355,069	△260,702
法人税、住民税及び事業税	907	14,131
法人税等調整額	-	4,072
法人税等合計	907	18,204
四半期純損失(△)	△355,976	△278,906
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△3,635
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△355,976	△275,271

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純損失(△)	△355,976	△278,906
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	1,504
為替換算調整勘定	△2,128	2,915
その他の包括利益合計	△2,128	4,419
四半期包括利益	△358,105	△274,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△358,105	△270,851
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△3,635

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失452,869千円、経常損失468,101千円、親会社株主に帰属する当期純損失491,675千円を計上し、5期連続の営業損失の計上、また、3期連続の営業キャッシュ・フローのマイナスを計上いたしました。当第3四半期連結累計期間においても、営業損失242,506千円、経常損失237,484千円、親会社株主に帰属する四半期純損失275,271千円を計上しており、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消して早期黒字化を図ることが優先課題であり、新しく策定した中期経営計画に基づき、以下に示す3つのテーマに係る施策を積極的に推進し、当社グループにおける業績回復を進めて参ります。

①新たな市場への挑戦

新たに『コミュニケーションプラットフォーム事業』及び『ネットとリアル融合事業』を展開し、新しい市場に挑戦します。新サービスの提供により、大手通信事業者などの既存顧客のみならず、『ネットサービス事業者』やネットの活用・展開が未だ不十分な『リアルな事業者』等を取り込み、顧客層を拡張することでビジネスのチャンスを広げます。

②スピーディなニーズ対応

M&A等により強化したグループ内外のリソースや市場を柔軟に組み合わせることで、迅速にサービスを創出・提供いたします。

当連結会計年度は、特に各事業会社の既に対象としている市場を共有することで、新たな顧客のニーズを発掘し、併せて、グループ内の既存リソースを融合することで、素早く価値を提供する活動に注力します。

③環境適応力の強化

早期に収益を確保するため、M&Aを基軸に、事業基盤の強化に取り組みます。また、平成28年8月1日付で持株会社体制に移行しており、スピーディな事業展開ができるようにグループ経営体制を整えて参ります。各子会社は個々の強みに特化した事業展開に専念するとともに、持株会社が『戦略策定』・『資源配分』等、全体的な視点から、グループをコントロールすることで、柔軟に環境に適應できる経営を目指します。

当社グループは、Oakキャピタル株式会社を割当先とする第三者割当により発行される新株式の発行並びに第9回新株予約権の発行及び行使によって調達した1,518,188千円の資金により、平成28年4月26日に筆まめ社、平成28年9月20日にAWESOME JAPAN社を子会社化しており、さらに平成28年11月14日にグッドスタイルカンパニー社を子会社化しております。

これらのM&Aにより実効性の高まった上記の施策を実施することにより、収益基盤を確保し経営の安定化を図り、当該状況が解消されると判断しておりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社が発行いたしました第9回新株予約権につき、その一部の行使がなされました。また、当社は平成28年11月29日開催の取締役会において決議した第三者割当による新株式の発行について、平成28年12月15日に現物出資による払込みを受けました。さらに、平成28年12月1日に当社を株式交換完全親会社とし、AWESOME JAPAN社を株式交換完全子会社とする株式交換を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金が288,442千円、資本準備金が366,261千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,989,366千円、資本準備金が3,849,344千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

区分	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	コミュニケーションソフトウェア関連事業	筆まめ関連事業	グッドスタイルカンパニー関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	282,273	-	-	282,273	-	282,273	-	282,273
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	282,273	-	-	282,273	-	282,273	-	282,273
セグメント損失(△)	△344,517	-	-	△344,517	-	△344,517	-	△344,517

(注) セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

区分	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コミュニケーションソフトウェア関連事業	筆まめ関連事業	グッドスタイルカンパニー関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	190,847	891,269	-	1,082,117	2,315	1,084,432	-	1,084,432
セグメント間の内部売上高又は振替高	54,816	2,500	-	57,316	-	57,316	△57,316	-
計	245,664	893,769	-	1,139,434	2,315	1,141,749	△57,316	1,084,432
セグメント利益又は損失(△)	△375,210	148,492	-	△226,718	△11,176	△237,894	△4,612	△242,506

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外進出支援事業などを含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間の未実現利益の調整を含んでおります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報
(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、デジタルポスト社及び筆まめ社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「コミュニケーションソフトウェア関連事業」のセグメント資産が58,126千円、「筆まめ関連事業」のセグメント資産が1,710,050千円増加しております。

第2四半期連結会計期間において、AWESOME JAPAN社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「その他」のセグメント資産が223,230千円増加しております。

当第3四半期連結会計期間において、グッドスタイルカンパニー社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「グッドスタイルカンパニー関連事業」のセグメント資産が2,311,938千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、コミュニケーションソフトウェア関連事業セグメントにおいて、55,295千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

筆まめ関連事業セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に筆まめ社の株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において617,077千円です。

その他セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間にAWESOME JAPAN社の株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において207,176千円です。

グッドスタイルカンパニー関連事業セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間にグッドスタイルカンパニー社の株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において691,615千円です。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループは各事業における権限の委譲及び責任体制の明確化と、より一層の経営判断の迅速化を図り、機動的かつ柔軟な経営を可能にする持株会社体制への移行を進め、平成28年8月1日付で持株会社体制に移行しております。また、筆まめ社の株式を取得し連結子会社としております。さらに、当第3四半期連結会計期間において、グッドスタイルカンパニー社の株式を取得し連結子会社としております。これに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「ソフトウェア販売」「受託開発」から、「コミュニケーションソフトウェア関連事業」「筆まめ関連事業」「グッドスタイルカンパニー関連事業」に変更しております。また、報告セグメントの利益を売上総利益ベースの数値から営業利益ベースの数値へと変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。